

授業科目	*基礎看護学実習 I				単位	1		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11211J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	金山 正子、梶原 江美、隅田 由加里、長崎 恵美子、中島 紀江							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>看護学生として他者とのコミュニケーションを通して自己の傾向や特徴を知るとともに、既習の知識および技術を活用しながら、入院生活を送る患者を生活者として理解する。また患者と関わる中で、看護者としての態度や姿勢について考え、患者の生活上のニーズを見出す能力を養う。</p> <p>各教員は実務家教員として看護を提供してきた経験をもつ。基礎看護学実習 I においては、患者・家族や臨床実習指導者とのコミュニケーションを通して、学生が看護実践の基盤となる援助的人間関係を構築できるように、必要な基本的技術の習得を支援する。また、看護職として求められる姿勢や態度についても、学生が自らの言動をふりかえり・気づき・望ましい変化へと繋げられるように支援する。なお、感染症の影響により当該実習受入れ先の病院(複数)において、当初予定した時期・期間での臨地実習の受入れが困難となった場合は、学内実習に置き換えることで当該実習の目標達成を目指す。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>基礎看護学実習 I は、以下1~4の実習目標のもと、各個別行動目標(詳しくは2023年度看護学実習要綱の実習目標)の達成を目指して実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 対人関係を通して患者との相互作用を振り返り、自己のあり方や相手の気持ちを考えることができる。 既習の知識・技術を通して生活者としての対象を理解することができる。 日常生活行動の援助を通して患者の生活上のニーズに気づくことができる。 看護者に求められる態度・姿勢について考え行動することができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合/ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	20	20	10	50	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			10				10	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10				10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				10	5		15	
態度(DP4-2)				10	5		15	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)						50	50	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>1. 対人関係を通して患者との相互作用を振り返り、自己のあり方や相手の気持ちを考え記述できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 患者との初めての出会いに相応しい態度で接している。 自己のコミュニケーションの傾向を客観的に記述できる。 自己のコミュニケーションが患者に与える影響を記述できる。 患者とのコミュニケーションを通して言語的・非言語的表現の意味を考え、患者の言動や反応を整理できる。 				<p>1. 対人関係を通して患者との相互作用を振り返り、自己のあり方や相手の気持ちを考えることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 患者との初めての出会いに相応しい態度について気づくことができる。 自己のコミュニケーションの傾向に気づくことができる。 自己のコミュニケーションが患者に与える影響に気づくことができる。 				

<p>2. 既習の知識・技術を通して生活者として対象を理解することができる。</p> <p>1) 患者の健康時の日常生活行動を把握し記述できる。</p> <p>2) 入院による環境の変化が、患者の日常生活行動に与える影響を理解し、健康時と比較して記述できる。</p> <p>3) 患者の日常生活行動にかかわる身体のしくみや機能について、看護上のきがかかりや、患者の生活上のニーズと関連させて記述できる。</p> <p>4) 入院生活や病気に対する感じ方、考え方を身体的、心理的、社会的側面から整理できる。</p> <p>3. 日常生活行動の援助を通して患者のニーズを判断し記述できる。</p> <p>1) 日常生活行動の観察を通して、患者の生活上のニーズが満たされているかどうか、また満たされていないと考えたニーズに関してはその根拠を記述できる。</p> <p>2) 患者の生活上のニーズを満たすために必要な看護技術を複数導き出すことができる。</p> <p>3) 必要と判断した看護技術について、患者の個別性を考慮した方法と根拠を、安全・安楽・自立の視点から記述できる。</p> <p>4) 個別性を考慮した看護技術が実施できる。</p> <p>(1) 実施前・実施中・実施後に、必要な患者の観察を行い記述できる。</p> <p>(2) 準備と後片付けが確実にできる。</p> <p>(3) 安全・安楽、自立、個別性を考慮した看護技術が実施できる。</p> <p>(4) 実施した看護技術の自己評価を根拠をもとに記述できる。</p> <p>4. 看護者に求められる態度・姿勢について考え、自ら進んで行動することができる。</p> <p>1) 実習生としての身だしなみ(整髪・化粧・爪)を整えている。</p> <p>2) 言葉使いが適切である。</p> <p>3) 約束・提出の期限を守ることができる。</p> <p>4) 報告・連絡・相談が能動的に適切にできる。</p> <p>5) 他者に自己の考えを分かりやすく簡潔に表現できる。</p> <p>6) 患者のプライバシーへの配慮ができる。</p> <p>7) 実習上知りえた個人情報を守ることができる。</p> <p>8) 自分自身の健康管理ができる。</p> <p>9) 感染防止に留意した健康管理行動(毎日の健康チェック、手洗い、不織布マスク着用、3密を避ける、不要不急の外出自粛など)が実行できる。</p> <p>10) 実習での体験を通して、ケアについて自身の考えを記述できる。</p> <p>11) 人間としての尊厳または権利を尊重する看護の行動に気づき記述できる。</p>	<p>4) 患者とのコミュニケーションを通して言語的・非言語的表現の意味を考えることができる。</p> <p>2. 既習の知識・技術を通して生活者としての対象を理解することができる。</p> <p>1) 患者の健康時の日常生活行動について述べるができる。</p> <p>2) 入院による環境の変化が、患者の日常生活行動にどのように影響を及ぼしているか説明できる。</p> <p>3) 患者の日常生活行動にかかわる身体のしくみや機能について説明できる。</p> <p>4) 入院生活や病気に対する感じ方、考え方を述べるができる。</p> <p>3. 日常生活行動の援助を通して患者のニーズに気づくことができる。</p> <p>1) 日常生活行動の観察を通して、患者の生活上のニーズが満たされているかどうか説明することができる。</p> <p>2) 患者の生活上のニーズを満たすために必要な看護技術を導き出すことができる。</p> <p>3) 必要と判断した看護技術について、患者の個別性を考慮した方法と根拠を、安全・安楽・自立の視点から述べるができる。</p> <p>4) 看護技術が実施できる。</p> <p>(1) 実施前・実施中・実施後に、必要な患者の観察ができる。</p> <p>(2) 準備と後片付けができる。</p> <p>(3) 安全・安楽に基づいて看護技術が実施できる。</p> <p>(4) 実施した看護技術の自己評価ができる。</p> <p>4. 看護者に求められる態度・姿勢について考え行動することができる。</p> <p>1) 実習生としての身だしなみ(整髪・化粧・爪)を整えている。</p> <p>2) 言葉使いが適切である。</p> <p>3) 約束・提出の期限を守ることができる。</p> <p>4) 報告・連絡・相談が適切にできる。</p> <p>5) 他者に自己の考えを分かりやすく表現できる。</p> <p>6) 患者のプライバシーへの配慮ができる。</p> <p>7) 実習上知りえた個人情報を守ることができる。</p> <p>8) 自分自身の健康管理ができる。</p> <p>9) 感染防止に留意した健康管理行動(毎日の健康チェック、手洗い、不織布マスク着用、3密を避ける、不要不急の外出自粛など)が実行できる。</p> <p>10) 実習での体験を通して、ケアについて自身の考えを述べることができる。</p> <p>11) 人間としての尊厳または権利を尊重する看護の行動に気づくことができる。</p>
---	--

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>基礎看護学実習 I (1単位)の詳細については「2023年度 看護学実習要綱」を参照。</p> <p>1. 実習単位・時間数:1単位 45時間</p> <p>2. 実習期間:2023年2月9日(金)~2月26日(月)のうちの6日間(※土・日・祝日を除く)</p> <p>3. 実習時間:8時30分~15時30分、(※学内実習時間は9時00分~16時00分)</p>	事前学習(自主学習/演習)	<p>【予習】</p> <p>実習前の事前準備として、学内での自主演習取り組む。日時は後日掲示する。</p> <p>* 基礎看護学実習 I で求められるコミュニケーション技法、生活援助技術及びヘルスアセスメントの実践に備え、既</p>	120

	4. 実習概要:患者とのコミュニケーションをとり、望ましい患者-看護者関係の形成を目指す。また他者との関わり通して、自分自身の言動や態度、傾向を客観的に振り返る機会とします。患者の生活上のニーズを判断し、既習の日常生活援助技術について考える。		習の知識・技術の習得状況を自主的に確認する。 *臨床実習中に必要とされるケア技術の習熟を図る。 *受け持ち患者決定後は、提供された患者情報をもとに、対象理解に必要な知識・技術の確認と整理を行う。 ◆場所:6号館3階看護学実習室(6301、6302)(※詳細は別途説明)	
2	学内オリエンテーション *日時: 2023年2月9日(金)13:00~16:00 *場所:集合場所等は掲示板で連絡する。 *オリエンテーション内容: ①学科長訓示 ②実習全体オリエンテーション ③基礎看護学実習 I の概要説明(実習記録の説明含む) ④看護倫理、医療安全と個人情報保護の説明 ⑤実習施設別実習生配置表の配布 ⑥実習施設別オリエンテーション ⑦緊急連絡網の作成、実習誓約書の記録など	事前学習(自主学習/演習)	【予習】 ・実習前の事前準備として、基礎看護学実習 I で求められるコミュニケーション技法、生活援助技術及びヘルスアセスメントの実践に備え、既習の知識・技術の習得状況を自主的に確認する。 ・受け持ち患者の理解に必要な、既習の知識を整理する。	120
3	臨地実習(4日間) *日時:Aグループ、Bグループに分かれて実習する。詳細は後日掲示。 *臨地実習初日: ・病院・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者紹介 ・受け持ち患者の看護の見学 ・受け持ち患者とのコミュニケーション	臨地実習	【予習・復習】 ・実習上の注意事項、1日の行動の振り返り、実習記録の整理 ・受け持ち患者の情報整理	【予習・復習】 180
4	*臨地実習2日目: ・受け持ち患者の看護の見学・実施 ・受け持ち患者の生活上のニーズや援助について情報を収集する。 ・受け持ち患者とのコミュニケーションをとおして、生活上のニーズを理解する。	臨地実習	【予習・復習】 ・1日の振り返り、実習記録の整理 ・受け持ち患者の情報整理 ・受け持ち患者の生活上のニーズと必要な援助計画について整理し、記載する。 ・受け持ち患者とのコミュニケーションをプロセスレコードに記載し、分析する。	【予習・復習】 180
5	*臨地実習3日目: ・受け持ち患者の看護の見学・実施 患者の生活上のニーズと必要な援助計画を記載し、指導者の助言を受ける。 ・受け持ち患者とのコミュニケーション プロセスレコードを記載し、自己のコミュニケーションについて分析する。	臨地実習	【予習・復習】 ・1日の振り返り、実習記録の整理・課題の調べ学習 ・受け持ち患者の生活上のニーズと援助計画について整理する。 ・実習最終日のカンファレンスで基礎看護学実習 I の学びを報告できるように実習目標に沿ってまとめ、自己評価表に記載する。	【予習・復習】 180

6	<p>* 臨地実習最終日:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者の看護の見学・実施 ・受持ち患者とのコミュニケーション ・最終カンファレンス (実習での学びを発表する) 	臨地実習 最終カンファレンス	<p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の振り返り、実習記録の整理・課題の調べ学習 ・最終提出日までにプロセスレコードを記載し、自己のコミュニケーションのあり方について理解を深める。 ・最終提出日までに、受持ち患者の生活上のニーズから、患者に必要な日常生活援助を検討し、看護実践課程用紙を完成させる。 	<p>【予習・復習】</p> <p>180</p>
7	<p>* 学内演習日(事後学習日):2月26日(月)9時00分~16時00分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習記録のまとめを中心に、受持ち患者の生活上のニーズの整理や、臨地実習での学びを振り返り、学生個々の自主的・主体的な学習を軸に進めていく。 <p>* 事後学習の主な課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習全般の振り返り、自己評価の記載、プロセスレコードの修正・加筆、看護実践過程用紙の修正・加筆 2. 指定された最終提出期限までに、臨地実習記録の提出を済ませられるよう、臨地実習記録の全般の見直しと充実・整備を図る。 <p>* 実習評価のための「個別面接」を行う。</p>	事後学習:自主学習と個人面談	<p>【事後学習での課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最低2場面のプロセスレコードの修正・加筆 2. 看護実践課程用紙の修正・加筆 3. 基礎看護学実習 I のまとめの修正・加筆 	
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	この1年間で学習した総合人間科学の科目、専門基礎科目(看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、対人関係論、)、看護専門科目(看護技術論演習、生活援助技術論演習、ヘルスアセスメント演習、看護学概論)の知識・技術の活用が求められる			
テキスト	基礎看護学実習Ⅰの詳細については、学内オリエンテーション時(2024年2月9日)に、【看護学実習要綱2023年度】に基づいて説明を行う。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	事前の学内学習および病院実習中に、必要に応じて、適宜、紹介、助言する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	人は、健康な時は日々何の支障もなく日常の生活を営んでいます。しかし病気の発症や障害を持つことによって、この当たり前に行っていた食事や入浴、排泄などの日常生活行動が自分では行えない、または行なえてもスムーズに行えない、他者の援助がなければ行えないなどの状況に陥ることがあります。このような状況に陥ったら、人はどんな気持ちを抱くでしょうか、そして生活を行う上でどんな支障が出現するでしょうか。看護師はこのような患者の気持ちや欲求の変化を、コミュニケーションや観察を通して理解し、その時の患者の言動や反応から生活上のニーズを分析します。そして患者が抱える不安や苦痛が少しでも改善できるように、安全・安楽・自立や個別性を考慮した日常生活援助を行っていきます。実習は講義や演習では学べない患者の現実の声を傾聴できる、とても貴重な時間となります。この時間を大切にして、患者の言葉や反応に全身の感覚を傾け、患者の心理を理解する努力、患者のニーズを探求する努力を行ってください。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	<p>IV. 評価</p> <p>基礎看護学実習Ⅰは、その他(実習目標を軸に作成された評価表に基づく評価)50%、レポート(実習で記載した記録類)20%、発表(実習期間中のカンファレンス等での発表や意見交換などの実習態度・学習姿勢・グループ学習貢献度)20%、レポート外の提出物10%で総合的に評価する。</p> <p>以下にその評価の詳細を示す。</p> <p>実習評価表による三者評価では、当該実習において達成すべき実習目標全般について、特に DP5【技能・表現】を重点評価項目(50%)とし、DP1【知識・理解】、DP2【思考・判断】、DP4【態度】及び DP5【技能・表現】の達成状況を総合的に評価する。</p> <p>DP1【知識・理解】と DP2【思考・判断】は実習記録(20%)により、DP4【態度】については、実習記録、実習態度・学習姿勢・グループ学習貢献度(30%)により評価する。適宜、個別の面接を実施し、上記指標に基づく総合的評価を行う。</p> <p>1. 実習評価表では、学生の自己評価、臨床実習指導者及び教員の客観評価を基礎に、各実習目標の達成状況を総体的に評価する(50%)</p> <p>特に、「目標 1. 対人関係を通して患者との相互作用を振り返り、自己のあり方や相手の気持ちを考えることができる。」については、当該実習における重点評価項目としており、DP5【技能・表現】の DP5-1「看護の対象と良好な関係を築くことができる。」の達成状況を重点的に評価する。</p>			

	<p>2. 実習記録については、記録として纏められた内容から、「目標 2. 既習の知識・技術を通して生活者としての対象を理解することができる。」及び「目標 3. 日常生活行動の援助を通して患者の生活上のニーズに気づくことができる。」の目標達成状況を評価する(20%)。</p> <p>具体的には、DP1【知識・理解】では DP1-2「看護実践に必要な基本的な知識を修得している。」を、また DP2【思考・判断】については、DP2-1「健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。」の達成状況を評価する。</p> <p>3. 実習態度・学習姿勢・グループ学習貢献度の評価については、「目標 4. 看護者に求められる態度・姿勢とは何かについて考え行動する。」に挙げた 1)から 11)の個別行動目標を指標として、それぞれの目標達成状況を評価する(30%)。</p> <p>DP4【態度】については、DP4-1「看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。」および DP4-2「根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。」を評価する。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法は、実習時間内に課題を確認し、助言を行う。また、実習終了時に面接により課題への助言を行う。実習終了後は、実習記録を確認し、課題達成への助言を行う。</p>
--	---